

# 認知症疾患医療センター通信

令和8年3月23日発行 第20号

こちら、つくしが丘病院  
認知症疾患医療センターです！



当院には高齢者ご本人、ご家族・親類、ケアマネジャーや施設関係者など高齢者の生活にかかわる多くの方々からご相談が寄せられています。相談者の都合に合わせて電話や面談で受け付けており、主に精神保健福祉士が対応しています。実際に寄せられる相談と、その対応の一部をご紹介します。



Q.物忘れがひどくなったようです。  
人や物の名前が出てこなくなりました。  
何度も同じ話をしたり、同じ質問を繰り返したりします。  
買い物に出かけても同じ物ばかり買ってくるので家に沢山あります。  
認知症でしょうか？

A.加齢による物忘れの場合もあれば、認知症の場合もあり、また別の病気の可能性も考えられます。

物忘れ＝認知症ではありません。年を重ねることで誰もが多少の物忘れをするようになります。それが日常生活や社会生活にどの程度影響し、ご本人やご家族、周囲の方がどの程度困っているのかという点に注目しましょう。何度も同じ質問をするのはご本人の不安の表れではないでしょうか。メモにしてご本人が確認できるようにするなど、対応を工夫することで生活への支障が減らせる場合があります。また、生活環境の変化、脱水症状や持病などの悪化、新たな症状・病気があり周囲の人には一時的にひどい物忘れのように見える場合もあります。物忘れや認知症の程度には個人差がありますので、気になる方はかかりつけ医や地域包括支援センター、認知症疾患医療センターにご相談のうえ受診をご検討ください。



Q.実際にはそこに居ない人の声が聞こえる、人や動物が見えると言って怖がっています。

A.生活リズムが乱れていませんか？昼寝などから目覚め、夢か現実かあいまいになり一時的に混乱している可能性があります。また認知機能の低下、幻視・幻覚が初期症状の“レビー小体型認知症”の可能性もあります。進行すると足がもつれる、歩幅が狭くなる、パーキンソン症状の出現、からだ固まりやすくなったり手が震えたりする症状が見られるようになります。ご本人の様子を観察し、生活や周囲の方への支障が大きいようであればかかりつけ医へ相談しましょう。



Q.交通違反を繰り返すようになりました。  
万引きを繰り返すようになりました。  
警察から受診を勧められましたけどどうしたらいいのでしょうか？

A.反社会的な行動や常同行動(何度も同じコースを歩いたり、決まった時間に同じ行動をとったりすること)を初期症状とする“前頭側頭型認知症”の可能性がります。若年層に起こりやすく、国の難病に指定されています。脳の前頭葉は人格や行動をつかさどる部位で、感情の抑制に影響し暴言が増えたり、身だしなみに気を配れなくなる患者さんも見受けられます。側頭葉は言語をつかさどる部位で、相手の言葉の意味が分からなくなったり、話しにくくなったりします。受診の検討が必要かもしれません。



Q.最近怒りっぽくなったように感じます。  
食欲がないようです。  
横になってばかりいるようになりました。

A.かかりつけ医にありのままを相談しましょう。環境や心情の変化、心配事が重なるなどさまざまな事柄をきっかけにご高齢者のからだへ症状となって現れる場合があります。認知症、気分障害、その他の疾患など必要な診断や治療を受けること、または環境調整や対応の工夫で改善が図られる可能性があります。ご本人やご家族だけではなく、かかりつけ医やケアマネジャーなど関係者と協同で対応することをお勧めします。



Q.受診を勧めても嫌がって応じてくれません。どうしたらいいのでしょうか？

A.ご本人が安心できる方法を考えてみましょう。自分自身の変化にご本人が戸惑っていることと思います。不安、あきらめ、伝えたくても言葉にできない、ご本人とご家族で困っている内容に相違があるなど、事情は人それぞれです。お一人で悩まず地域包括支援センターや認知症疾患医療センターにご相談ください。一緒に考えましょう！

「自分自身の物忘れが気になる」「介護に疲れてしまった」「誰かに話を聞いてほしい」どんなことでもお気軽にお話してください。匿名相談にも対応します！



## つくしが丘病院認知症疾患医療センター

☆認知症に関する専門的知識を持った看護師や精神保健福祉士による専門相談をおこなっています。

※要予約、相談無料

☆受診予約、その他相談お問い合わせ

月～金（土日祝、年末年始は休み）、9時～16時

電話：017-788-2988（センター直通）